



# さざんか

かとう学園 宗像市立河東中学校  
学校通信第46号(R6. 1. 26)

## 筑前地区新人駅伝大会で、女子3位! 男子優勝! 男女そろって県大会出場へ

1月20日(土)冬の小雨が降る中、博多の森陸上競技場周辺周回コースにて、第40回筑前地区中学校新人駅伝競走大会が開催されました。女子は、5区間32分34秒で第3位に入賞。男子は、6区間1時間4分30秒で見事優勝しました。男女とも県大会へ進出です。県大会は、2月10日(土)北九州市立本城公園周回コースで行われます。みんなで応援しましょう。

また、明日と明後日はバスケットボール部の県大会が福岡市総合体育館サブアリーナで行われます。筑前NO.1を勝ち取った本校バスケ部の活躍に期待しましょう。

### 授業研修の風景

年が明けて、さっそく授業研修が始まりました。今年も河東中ではより良い授業づくりに励み、対話的で深い学びへと導いていきたいと思っています。

### 碓先生(国語)

1月16日(火)8年5組で行われた碓先生の国語の授業。古典の名作「平家物語」の扇の的の授業が公開されました。碓先生の板書の美しさは格別です。



那須与一が沖合の船の扇の的に矢を射るという平家物語で最も有名な場面。表現の工夫を読み取る授業。8年5組の生徒は、本文をしっかりと読み取り、グループごとに役割分担してこの場面を再現しました。また、「対の関係」で描かれている点を3つ探し当てて発表しました。色の対比や対句表現による視点の切り替えの巧みさの鑑賞は、読み取りの正確さからきています。

## 花をのみ 待つらむ人に 山里の 雪間の草の 春をみせばや ～『新古今和歌集』にある藤原家隆の和歌より～

「まだ花が咲かないのかなあ、春が来ないかなあと待っているだろう人に、山里に積った雪のあいだにわずかに芽吹いた若草にも、春はもう来ていますと見せたいものです」という意味の歌です。

暦の上では、来週末はもう立春です。春はもうそこまでやってきました。およそ800年にわたって藤原家隆のこの歌が愛されてきたのには、日本ならではの価値観があります。千利休がそのことを茶の心として評価したことも知られています。人は、冬の寒さの中で春の温かさや花ひらく日々を待ちうけています。しかし、小さいふきのとうの花や山里の解けた雪間から顔をのぞかせている若草にも春を感じることができます。そうした小さいふきの中にも、大きくて深い喜びを感じることが大切だと詠んでいます。この歌は、どんな小さなものにも喜びと感謝が隠れていて、それを見つける心を持ちましようとする歌のような気がします。



## 常によい目的を見失わずに努力を続ける限り、最後には必ず救われる

### ～ ドイツのゲーテから始まった努力論 ～

日々、努力を重ねている河東中生のみなさんに、近現代の主な努力論を紹介します。勉強や部活動、クラブチームで、ピアノや書道、9年生は受験勉強で日夜努力を積んでいることでしょう。今回は、改めて「努力はどんな価値があるのか」「努力と結果はどうすればつながるのか」「努力は報われるのか」…そんな努力について、これまで語られてきたことの一部を紹介しましょう。

冒頭上げたゲーテの言葉。近代社会でゲーテは、努力は必ず報われる、だから頑張りましょうという旗を振りました。この言葉は、工業化が進む近代社会や科学が進歩していく世の中で大いに歓迎されもてはやされてきました。そして、発言者は不明ですが、次のような有名な言葉が生まれます。

努力して結果が出ると、自信になる。

努力せず結果が出ると、おごりになる。

努力せず結果も出ないと、後悔が残る。

努力して結果が出ないとしても、経験が残る。

現実社会では、人間は努力の対価として結果を求めます。努力した分の結果を要求するのは自然な気持ちでしょう。ただ、結果が出なくても、自分の中に育まれているものがあり、それを大事にしましょうというのがこの言葉の真意でもあります。

別な視点もあります。現在ソフトバンクホークスの会長をしている王貞治さんは、現役時代ホームランの世界記録を打ち立てましたが、そのためには人に隠れて凄まじい努力を積んだ人です。その王さんの言葉です。

「努力は必ず報われる。もし報われない努力があるのならば、それはまだ努力と呼べない。努力しても報われなかった、それは努力をしていなかったからではなく、努力とは呼べない域だった」というものです。

近年、日本人の心を強く打ったのはスケートの金メダリスト羽生結弦選手の「報われない努力もある」という王さんとは対照的でせつなさを伴う発言でしょう。その羽生選手の努力論を少し長く引用しましょう。

「私の人生のそのほとんどは、夢への道でした。希望と絶望の連続でした。毎日の練習の中で成功と失敗の連続で失敗の日の方が多かったと思います。やっとできたと思ったら、その10秒後にはできなくなっていて、それから10日以上成功しない日もありました。4回転ジャンプでは、1ヶ月に1回成功するかしないかの時期もありました。成功すればまた失敗する。私はオリンピックで連覇という夢を叶えました。しかし、私はオリンピックで4回転半ジャンプを飛ぶ夢をつかみ取ることはできませんでした。その時私は、報われない努力もあるということを感じました。今までの努力の日々は、無駄な日々だったとも思いました。夢は必ず叶うわけではありません。努力が必ず実るわけではありません。頑張ったところで夢が叶う人は、本当に限られた人だけです。社会の理不尽によって諦めることもあると思います。私の人生はたくさんの選択の連続でした。その選択がすべて正解だったかわかりません。その二択の積み重ねで、選ばれた今は正解なのか、不正解なんかわかりません。しかしただ、私はすべての選択に意味を持たせたいと思っています。選択によって失敗、ケガをしたとしても意味を持たせたい。その時は意味がないと思っても、振り返った時に意味があったことだと思えるように生きていきたい。挑戦はまだ続きます。まだまだ続けます。これから先の選択も悩み迷うと思いますが、この選択があったからこそ未来があると思えるように今を選び続けます。」

報われない努力になるかもしれないと思いながら、ひたすら努力を続けることに最大の意味を持ち続けていた羽生選手の素敵な生き方と考え方だと思います。

最後に、ゲーテの努力論で締めくくります。人類史上、最も有名で不思議な安心感を与える言葉です。

「人間は、努力するかぎり迷うものだ」

